

宇高 雄志

兵庫県立大学 環境人間学部 准教授

伝統的な住宅における高齢者の住宅内事故の現状はあくど防止に関する研究

全国で歴史的な町並みの景観保全が注目を集めている。一方で、これらの歴史的な町並みでは高齢化、過疎化、空き家化が進み、唯一の担い手である高齢者の存在が大切となる。しかし伝統的な住宅特有のしつらえが継続的な居住の妨げになっている。そこで目的① 伝統的な住宅における家屋の不満と改造の実態を把握する。目的② 伝統的な住宅における住宅内事故の現状を把握する。目的③ 伝統的な住宅における家屋の問題を明らかにする。広島県の御手洗地区、出口地区での住宅内事故と住宅の改造に関する調査の結果、両地区では歴史的価値の有無ではなく、高齢者であることが家屋の不満に影響を与えている。全国の比較でも住宅内事故は多くなく、伝統的な住宅があることが特別影響していないことが分かった。つまり、伝統的な住宅での高齢者のバリアフリーに対するニーズは必ずしも高いわけではなく、長く住み続け、身体を慣れさせ、適切な住宅改造を行うことが重要であることが分かった。